

気候変動を踏まえた琉球諸島沿岸海岸保全基本計画検討委員会

【第 2 回 議事総括】

<気候変動を踏まえた計画外力に関する検討結果>

1. 高潮潮位偏差（計画潮位偏差）
 - ・ 既往想定台風と同確率の将来台風の気圧低下量を分析した結果、将来変化比は 0.80～1.01 倍となり、最大値の 1.01 倍を代表値として全想定台風に適用した。
 - ・ 将来の潮位偏差は海岸保全施設で 0.4～1.5m 程度となった。
 - ・ 潮位偏差の将来変化比は、0.99～1.02 倍となり、国総研資料 No.1302 にある琉球諸島の平均値 1.01 倍と同程度となった。
2. 高潮設計高潮位
 - ・ 想定台風による最大潮位は、現行 1.3～2.6m、将来 1.7～2.9m となった。（現行と将来の潮位差は海面上昇量 0.32m の影響）
 - ・ 現行台風潮位は、リーフ・波浪の影響を含まない現行設計高潮位（概ね 2m）と同程度となった。
3. 高潮波浪（計画波浪）
 - ・ SMB 法による簡易波浪推算を用いた方法で擾乱（台風）を抽出した。
 - ・ 抽出した擾乱で将来変化比を算出した結果、確率年数 30 年、50 年共に 0.94～1.13 倍であり、国総研資料 No.1302 の平面図の読み取り値 0.98～1.04 倍に対して、概ね同程度であるが、比較的幅広い変化比となった。
 - ・ 本検討で計算した A-1、B-1 手法の波浪推算結果を比較した結果、代表地点での波高は将来変化比と同程度となった。

<気候変動を踏まえた計画外力の今後の検討方針>

1. 高潮潮位偏差（計画潮位偏差）
 - ・ 気候変動を踏まえた防護水準を設定するにあたり、計画潮位偏差は、各海岸の地域特性を考慮するため、海岸保全施設が存在する箇所での潮位偏差で評価
2. 高潮設計高潮位
 - ・ 気候変動を踏まえた防護水準を設定するにあたり、設計高潮位は各海岸保全施設での最大潮位（基準潮位+計画潮位偏差）をもとに設定
（※別途、代表海岸を選定し、当該海岸の設計思想（リーフや波浪などの影響）を考慮した必要天端高を算出する予定）
3. 高潮波浪（計画波浪）
 - ・ A-1、B-1 手法の将来変化比は同程度であるため、現行計画の考え方に整合する確率評価による B-1 手法の変化比を設計沖波に採用
 - ・ 計画波浪の将来変化比は本検討結果と国総研 No.1302 の結果について、擾乱抽出の妥当性を踏まえてを比較検討した上で、設定する方針
 - ・ 沖波設定地点は、基本的に既往の沖波設定地点での将来変化比を採用する方針。なお、変化比の最低値は 1.0 倍とし、地域海岸別、所管別で変化比を統合するか等は今後検討する予定

4. 津波

- ・ 高潮と並行して海面上昇量を含めた L1 津波解析を実施
- ・ 高潮の必要天端高と比較して防護水準を設定

5. 海岸侵食

- ・ 海面上昇量に対して、汀線後退量を概算
- ・ ただし、侵食対策は今後の研究成果や測量結果も考慮しながら期間をかけて評価する予定